

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73206	2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)		臨床看護援助論Ⅰ（急性期） (Clinical NursingⅠ:Acute Care)			
担当教員名		吉田 澄恵／新井 麻紀子／藤巻 郁朗／伊能 美和			
授業の概要及び到達目標					
○概要： 急性期の状態にある人を全人的に理解し、起こりうる状況を科学的に分析し、健康の危機状況を回避または対処し、回復を支援するための援助の実際を学ぶ。手術療法、集中治療、救急医療の対象となる人を理解し、援助に必要な基礎的な看護実践能力を身につける。 ○到達目標： ①急性期の状態にある人を理解し、支援に必要な援助を説明できる。 ②手術療法の対象となる人に生じうる健康問題をアセスメントし、セルフケアを支援する方法を検討できる。 ③集中治療の対象となる人に生じうる健康問題をアセスメントし、セルフケアを支援する方法を検討できる。 ④救急医療の対象となる人に生じうる健康問題をアセスメントし、セルフケアを支援する方法を検討できる。 ⑤急性期の状態にある人を支える家族や重要他者への支援について検討できる。 ⑥急性期の状態にある人を支えるための多様な職種・部門との連携について検討できる。					
準 備 学 習 等					
① 特に、心理学、体の仕組みと働きⅠ～Ⅱ、臨床薬理学、病態生理学、治療学総論、疾病治療論Ⅰ～Ⅲについて復習しておくこと。 ② 予習・復習には、関連する学習教材（動画配信）を積極的に用いることを推奨する。					
成績評価の方法	試験 60％（授業の3分の1以上の欠席は受験資格なし）、レポート 40％				
テキスト	安酸史子他、「ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論」第3版、メディカ出版、2015 吉田澄恵他、「ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況／セルフケアの再獲得」、メディカ出版、2015				
参考図書	① 雄西智恵美他、「周手術期看護論」、ヌーベルヒロカワ、 2009 ② 鎌倉やよい他、「周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体」、医学書院、2008 ③小澤知子、「急性期看護のアセスメント」、メディカ出版、2011				

備 考	① 本科目は、臨床看護学実習（急性期・慢性期）の履修前提条件である。 ② オフィスアワー等を積極的に利用し、疑問を放置せず学習を積み重ねること。
授 業 計 画	
I. 急性期の状態にある人の理解とセルフケア支援 第1回 急性期の状態にある人の理解と特徴的な看護状況 第2回 生命の危機的状況における生体反応と観察 第3回 心理・社会的危機状況の理解と援助 第4回 急性期の状態にある人を支える家族・重要他者への支援と必要な連携 II. 手術療法の対象となる人へのセルフケア支援 第5回 周術期の経過と健康問題のアセスメント ① 第6回 周術期の経過と健康問題のアセスメント ② 第7回 手術療法の対象となる人のセルフケア支援方法の検討①（課題別グループ学習） ※ 手術に至る経過、手術療法に伴うセルフケアの変化、手術療法に伴う身体侵襲と生体反応などの特徴が異なる事例をもとに、がん、変形性骨関節疾患、性・生殖器疾患など、地域医療の場における臨床看護で遭遇しやすい状況での患者理解、ケアプラン作成、看護技術を調べ学習する。 第8回 手術療法の対象となる人のセルフケア支援方法の検討②（課題別グループ学習） 第9回 手術療法の対象となる人のセルフケア支援方法の検討③（課題別グループ学習） 第10回 手術療法の対象となる人のセルフケア支援方法の検討④（グループ発表） III. 集中治療の対象となる人のセルフケア支援 第11回 集中治療室の環境とセルフケアへの影響 第12回 集中治療の対象となる人のセルフケア支援方法の検討①（呼吸・循環） 第13回 集中治療の対象となる人のセルフケア支援方法の検討②（感染・疼痛） IV. 救急医療の対象となる人のセルフケア支援 第14回 救急医療の提供体制とセルフケア支援 第15回 救急医療の対象となる人のセルフケア支援方法の検討（骨折・外傷）	